（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

平成２９年４月１７日

釧路市議会議長　　様

会 派 名　　市政進クラブ
代表者名　　松永 征明　　松永印

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	松永 征明、鶴間 秀典、金安 潤子、大澤 恵介
出　張　先	沖縄県那覇市、石垣市
期　　間	平成２９年４月１０日　～　４月１３日（４日間）
用　　務	視察
調査（研修）結果等の概要	別紙報告書参照
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

視察テーマ：沖縄県における観光振興の施策について
視 察 場 所：沖縄観光コンベンションセンター
（前田光幸参与、下地貴子総務部長 、有馬壮一郎総務課長）
視 察 日 時：４月１１日（火）１０：００～１２：００

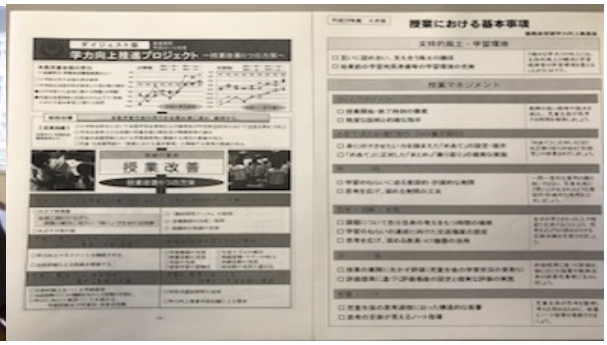
沖縄県の平成28年観光客数は861万3,100人、前年比率11.0％の増加、4年連続で国内外客ともに過去最高を更新し、外国客においては初の200万人台を記録。それらの要因として、
○ 官民あげてのプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図った
○ 関係機関及び民間事業者と連携した受入れ体制整備の取組により満足度向上等に努めた
○ 国内航空路線の拡充による国内客の増加
○ 海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国客の増加　　等が挙げられる。

沖縄県の観光振興は「沖縄21世紀ビジョン基本計画」「第5次沖縄県観光振興基本計画」という2つの基本計画に基づき策定された「沖縄観光推進ロードマップ」により実施されている。ロードマップは官民27団体にて策定されたものである。

修学旅行の受け入れは平成17年から、2,500校程度、40～45万人で推移している。各旅行会社等と提携して、沖縄での体験プログラムや平和学習の紹介と共に、他府県各学校の教員向けに沖縄での修学旅行の意義を周知し修学旅行先として選定してもらうという誘致を行っている。平和学習についてなどについても、一般の方向けの情報発信を行っている。

「観光立国ショーケース」をはじめとする様々な観光施策が打ち出され、釧路市が一丸となって観光振興を行っていくにあたり、日本屈指の観光圏である沖縄県に学ぶところは大きく、今後の観光戦略について多くの学びを得た。

視察テーマ：学力向上施策－夢・にぬふぁ星プランⅢについて
視 察 場 所：沖縄県教育庁
（義務教育課学力向上推進室 目取真康司室長、山城高雄指導主事）
視 察 日 時：４月１１日（火）１５：３０～１６：３０



沖縄県では昭和63年より『学力向上主要施策』を策定し学力向上を推進してきているが、全国学力・学習状況調査が導入された平成19年時にはかなりの遅れがあった。
平成25年、それまで都道府県別の平均正答率では6年連続最下位から24位へと大躍進。
釧路市は「釧路市教育推進基本計画」と共に「釧路の子ども達に基礎学力の習得を保障するための教育の推進に関する条例」を有するが学力における課題解決が遅々として進まない。
沖縄県の躍進ぶりの背景、そしてその後の学力向上・維持の施策について伺った。

平成20年度の全国学力学習状況調査2年連続最下位の結果を受け、平成21年度から秋田県との人事交流がスタートした。毎年2名の教員を相互派遣することにより、課題の解決はじめ学力向上における様々な改革のもと、現在学力向上推進プロジェクトに取り組まれている。

学力向上推進プロジェクトの重点は「授業改善」。児童生徒に確かな学力を育むには授業改善が最も効果的であることは明白で、「わかる授業」「授業の基本事項」を基に授業改善の取り組みを推進し、「小学校低学年からの学力向上の取組」「小中連携」「中1の学力の底上げ」「高校進学率の向上」について全交代制で徹底するようにしている。

授業改善の促進、マネジメントの充実に向けて、学校支援訪問が行われている。学校組織として学力向上に取り組んでおり学校が増えている一方、学校間に差があることから、離島・へき地を含め年間300前後の学校支援訪問が行われている。
管理職によるマネジメントの状況把握、助言や学力向上WEBシステムを活用も功を奏しており、その他、授業改善アドバイザーは一事業、学力向上推進本部会議からの提言など、県内児童生徒の学力を全国水準に高め維持するために様々な施策がとられている。

印象的であったのは「とにかく当たり前のことを当たり前に行う」ということ。私見ではあるが、釧路市においては「当たり前」がなかなか「当たり前に」行われていない間があり、その改善こそが大きなポイントであるように思う。また、北海道学力向上WEBシステムについて、釧路市での取り組み状況が不明であり、今後調査していきたい。

視察テーマ：石垣市観光基本計画について
　　石垣牛ブランド化等畜産振興施策について
視 察 場 所：石垣市役所
　　（前観光文化課観光推進班 翁長隼人班長
　　農林水産部畜産課 宮良信則課長、宇根和昌課長補佐兼係長）
視 察 日 時：４月１２日（水）１３：００～１５：００

昨日の沖縄県の観光振興施策に続き、石垣市における観光政策並びに石垣牛のブランド化について伺った。

観光施策

新石垣空港の影響もあり、石垣市の観光入込客数は 100 万人を超え、そのうちインバウンドが約 2 割を占めるが、地理的な事情から台湾人観光客の割合が特に多い。
最近の観光客は少人数で、日数的には 3～4 日、石垣島を拠点に西表島や竹富島などのいわゆる八重山諸島の自然に親しみ、文化を味わい、感動が生まれ、リピーターとして再び訪れるというケースが多い。これらは以下の石垣市観光基本計画の 3 つの基本目標の取組みによるものと思われる。
基本目標１：「みる旅」「する旅」から「来るたび発見･また来たくなる旅」の確立を目指す。
基本目標２：観光分野（観光ニーズ）とまちづくり分野（市民ニーズ）の融合による固有の魅力ある観光文化の創造を目指す。

基本目標３：自然環境と人を最大の観光資源とする持続可能な取り組みを促進する。

観光客を受け入れるに当たり、地域住民がまずその土地の財（もりょく）を知ることが大切。そのすべては足元にある。足元財の整理によって特徴を強化することができれば、その1点をもって第1級の観光地になるという考え方は、釧路市においても同様に重要なポイントであると感じた。

石垣牛のブランド化

平成13年の沖縄サミット晩餐会において食されて以来その名声が高まり、平成20年地域団体商標「石垣牛」の登録が特許庁より認可され、島内需要は安定しつつある。しかし、石垣牛の品質に大きな格差があることから、「石垣牛」の定義、流通体系の確立、品質の徹底を構築する必要があった。

「石垣牛」は八重山群島において生産及び飼育管理された黒毛和種で登録書及び出征確認書、個体識別番号で確認できる生産履歴書を有した20か月以上肥育管理された去勢、および雌であることと定義されている。

取扱条件は以下の通りである。

１．地産銘柄表示が明確であること。
２．「企画」の表示が明確であること。（特選・銘産）
３．卸小売店、飲食店については、子タオ識別番号の表示が明確であること。
４．その他

流通体系としては、八重山食肉センター格付け後枝肉セリ販売・肉卸業者（石垣牛流通販売契約業者）・販売小売店/焼肉店、消費者である。
現在、地元主体の業者による枝肉セリを行い流通販売体制を築いている。新空港開港後多くの観光客が訪れ、観光客の石垣牛人気は高く、石垣牛肥育部会員の生産意欲、新規肥育部会員加入など石垣牛の安定供給に向け取り組みが進み、こうした取り組みによって石垣牛のブランドが成し遂げられている。